

授業科目名 <英訳>	隣りの大国，中国を理解するために Understanding China, our large neighbor country			担当者所属 職名・氏名	国際高等教育院 教授 岩井 茂樹				
群	拡大群	系列	人社系	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール
開講年度・ 開講期	2015・前期	受講定員	15人	配当学年	1回生	対象学生	全学向		
曜時限	木5	教室	総合研究4号館(人文科学研究所 本館)内講義室ないしはゼミナ ール室(受講者数によって決定)(本 部構内)			使用言語	日本語		
キーワード	中国 / 日本 / 歴史 / 外交問題 / 文化								

[授業の概要・目的]

わたくしたちの社会は、現在、おおきな転換の時代のなかにあります。日本だけではなく、多くの地域・国々が、これまでの戦後世界の秩序の揺らぎに直面し、好むと好まざるとにかかわらず、転換を迫られています。新興國家の抬頭による政界經濟の新局面，全球的な課題であるエネルギー・環境問題，經濟のグローバル化と自由化への対応など，多くの要因が重なりあって，秩序の揺らぎが惹起されているわけです。

21世紀の初頭に発生した大変化の一つとして，中国の經濟的抬頭と大国化は著しい現象として，日本の經濟や外交に影響を与えています。1970年代から80年代にかけては，日中国交回復が実現して「残留孤兒」問題が脚光をあび，「日中友好」が喧伝されました。中国は改革開放政策によって社会主義の殻を破っていち早く經濟發展の軌道に乗ることに成功しました。2009年，中国のGDP（ドル建て名目値）は日本を抜き，米国に次ぐ世界第二の經濟大国になると，わずか5年ほどで日本の2倍の經濟規模にまで成長しました。こうした転移のなかで，「日中友好」は過去のものとなり，領土問題に代表される外交摩擦や「反日・抗日」の喧伝などがあり，日本では「嫌中」（さらにそれに関連した「嫌韓」）の雰囲気が強くなっています。「友好」にせよ，「嫌中」にせよ，感情的な好悪や，マスコミやネット上にあふれる言論に左右され，同じようなことを言う，行なうことは簡単です。しかし，重要なことは，感情に左右されず，客觀的な事実にもとづいて相手を理解する姿勢をもつことです。この大きな転換の時代にただなかで，世界の中における中国と日本の位置，そして相互の歴史的関係について，つねに自分で調べ，自分の頭で考えて理解を深めることが求められています。

本年度は，下の課題について，それぞれ関心のある諸君に「班」を作ってもらいます。班ごとに相談して分担して報告をしてもらい，全員で討議することを重ねます。

課題A：中国の大国化という大問題

課題B：中国の近代と政治の特質

課題C：東アジアにおける中国文化と日本

このポケットゼミでは，自分で考え，考えたことを表現することを学びます。さらに他者の意見を自分の理解をふかめるために討論することを重視します。

[到達目標]

関心のある問題について調べ，自分の頭で考え，考えたこととその根拠となる事実（資料）とを，レポートやプレゼンテーションとしてまとめること，他人の意見について正しく理解するため，またそれを通じて自分の知識を深めるために討論すること，以上の2点を到達目標とします。

隣りの大国，中国を理解するために(2)

【履修制限の方法】

受講定員を超える受講申込があった場合は無作為に抽選を行います。

【授業計画と内容】

week1. 導入，それぞれの興味にもとづく班編制

week2-week4 各班でテキストをざっと一読し，著者の主張の要点やその根拠について簡単な覚え書きを作成してもらったうえで，口頭報告をしてもらう。知識の共有をめざすとともに，各自で深く学びたいテーマを発見することが目的になる。

week5-week10 レポートを書くための指導および議論をする。

week11-week13 各人15分程度をつかい，レポートにもとづく報告と討論をおこなう。

feedbackは試験期間終了後に受講者からの要望にもとづいて実施する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

ゼミナールですから，出席が重視されます。質問や議論における発言の回数を評価します。6月にレポートを提出してもらい，7月に各自がそれにもとづいた報告をして，討論をおこないます。レポートおよび報告の質が評価の対象となります。 に60%， にそれぞれ20%の重みをつけて総合評価をおこないます。

【教科書】

丹羽宇一郎 『中国の大問題』（PHP研究所 PHP新書931）ISBN:978-4-569-81926-6

李沢厚 『啓蒙と救亡の二重変奏』（資料として配付）

金文京 『漢文と東アジア 訓読の文化圏』（岩波書店 岩波新書1262）ISBN:978-4-00-431262-8

【授業外学習（予習・復習）等】

week1からの7日間でテキストを通読し，自分が重要だと考える論点とその根拠について覚え書きを作成してもらいます。week2～week5で報告をしてもらいますので，その間に覚え書きを充実するために作業してもらいます。

week5～week10の期間は，自分で選択した課題について，テキスト以外の資料（本や論文）にも目をおして，テキスト著者の論点を確認したり，批判したりする作業してもらいます。

week11～week13はレポートやスライドを作成し，プレゼンテーションの準備してもらいます。

【その他（オフィスアワー等）】

分からないことを遠慮なく質問することと，未熟でよいから考えを口に出して表現することとに努めて下さい。口頭で自分の考えを述べることは，それを文章にして表現することの土台です。質問やアドバイスの要求はいつでも受けつけます。メールも歓迎します。プライバシーに関わらない事柄については，質問内容や回答を匿名という条件つきでゼミ参加者内部で共有することがあります。